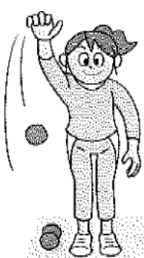


想像の夏から創造への夏へと

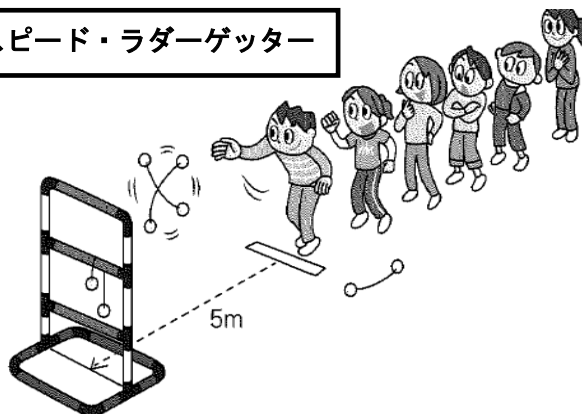
この7月の体育の授業で、一般社団法人新潟県レクリエーション協会の協力をいただきながら「チャレンジ・ザ・ゲーム」という活動に取り組んできました。

これは、公益財団法人日本レクリエーション協会が、レクリエーションの普及・実践を通じて、青少年等の子どもからお年寄りまで、仲間とふれあいながら体づくりができる運動として全国での普及に努めているスポーツ・レクリエーションです。各都道府県の自治体にレクリエーション協会が設置されています。新潟県では事務局がデンカビックスワンスタジアムの中であり、理事長は1992年から2004年まで新潟県知事を務めた平山征夫氏が務めています。

今回、当校では、レクリエーション協会が開発・認定している数多くのスポーツ・レクリエーションの中から、特に中学校教育に適していると思われる下記の4競技に絞って、全国や新潟県の記録に挑戦しようと目標を立ててがんばってきました。

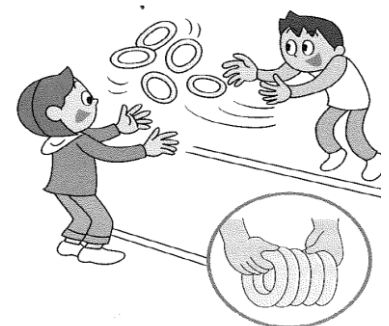


スピード・ラダーゲッター

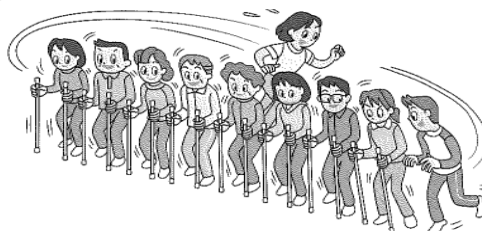


5m

ペアリング・ザ・キャッチ



ニテレク・ボール・チャレンジ



キャッチング・ザ・スティック

レクリエーションというと、あまり汗もかかない単なるお遊び的な内容と誰もが想像するかもしれませんが、やってみるとなかなかこれが一筋縄ではうまくいかず、体力的にも、一生懸命集中

して取り組めば取り組むほど、汗びっしょり、場合によっては筋肉痛になるほどのものでした。

この取組を実施した理由はいくつかあります。何よりも、この競技の取組には、生きるための大切な要素がたくさんつまっているからです。生きるための大切な要素、いわゆる、人としての総合力の基盤となるものです。体力、創意工夫、集中力、粘り強さ、コミュニケーション能力、思いやり、協力、ルールを守る、等々が挙げられるでしょうか。

楽しみながら、そして仲間と協力し合いながら、具体的な目標を設定して人としての総合力を発揮すれば、通常の体育やスポーツで必要とされる運動センスや、持って生まれた運動神経や体力等に関係なく、だれでも大きな成果が挙げられる取組だからです。

7月の暑い時期、単純に走ったり跳んだりする競技を避け熱中症になるリスクを減らしたかったということもありこの時期を選びました。

実際、生徒は、取り組み始めたばかりは単なる「遊び」と思っていたようですが、次第次第にのめり込んで真剣に取り組んでくれた生徒がほとんどで、たいへん嬉しく思っています。目標にした記録も、4競技中3競技で、現時点の日本記録を大幅に塗り替えたグループもあるなど、見事な成果だと感心しています。

ひたむきに真剣に取り組む。あきらめないで何度も何度も挑戦する。声をかけあって励ましながら繰り返す。一生懸命頑張っている仲間を応援したり励ます。体育がそれほど好きだと思われなかった生徒が楽しそうに頑張る。運動が得意でない子が目を見張る記録を打ち立てる。などなど、すばらしい姿がたくさんありました。

一方で、課題が見えた生徒やグループもあります。うまくいかないからあきらめてすぐ休んでしまう。ルール以外の方法で器具を使用してふざけて遊ぶ。ミスしたグループの人間を非難する。学校の勉強の成績はいいのに、どうやったらうまくいくのか工夫したり、みんなと一緒に考える力が弱い。部活動では主力の選手で運動能力も高いのに、集中して粘り強く取り組めない。特定の間人としてしかグループを組めない。なるほど、体育館に足を運ぶと、本当に子どもたちのそんないい面も悪い面も、座学の間ではわからない個々の生徒や学級・学年の集団の様子や雰囲気がよく見えました。

無償でみんなの指導をしていただいたレクリエーション協会の先生方も、たった数時間のお付き合いにもかかわらず、「この子はこういう特性があるよね。」「あの子はこういうところが課題だな。」「この学級は、もうちょっと、あの子がしっかりすれば。」など、我々教職員が把握している生徒や学級の特質を見事に見抜きながら指導してくれました。

子どもたちの今回の取組の成果を今後の自信と励みに、様々な課題を学校や家庭生活の反省材料にしていきたいと考えています。

さて、夏休みに入りました。昨年度に引き続き、夏休み前の最後の授業日での全校講話では、夏休みは特に3つの出会いを大切にしたいとの話をしました。

3つの出会いとは、「人」との出会い、「本」との出会い、「自然」との出会いです。特に、今年度は、夏休みの1・2年生の課題に、キャリア教育の一環として、職業インタビュー・職場体験を提示しました。

とにかく、大人が真剣に話をするのを聴く機会、大人が必死で汗を流す姿を見る機会、大人とコミュニケーションをとって触れ合う機会を、たくさんもってもらいたいというのが一番の願いです。家族や親族等と一緒にいる時間が多くなることでしょう。その絶好の機会だと捉えています。子ども側からだけでなく、保護者や家族の方も、子どもが聞いていようがまいが、問答無用で子どもに話しかけたり、必要以上に意識して関わってほしいものです。子どもは、聞いてないようでしっかり聞いていたり、うわの空で迷惑そうな態度でも、いつしか心の中に刷り込まれることがあるものです。

私が小さい時分に、大正元年生まれの祖母は、夏になると決まって「大きな揺れがあつてしばらくすると、あの湖の遥かかなた向こうの大空が、突然真っ赤に染まったんだ。」と恐ろしい顔をしながら、孫三人に毎年毎年繰り返して同じ話を一方的に浴びせてきました。

1923(大正12)年9月1日の関東大震災の日の記憶についてです。私の実家(茨城)から東京都心までは直線距離にして約80km。夕焼け時でもないのに遠く遥かな空が青空から突如として炎で赤く染まる情景について、どんな映像や画像よりも自分の想像力を掻き立て、ただ事ではなかったと十分に感じさせるに足る、毎夏恒例の祖母の語り部ぶりでした。

レクリエーションとは「re-creation」が語源です。つまり「再創造」という意味です。

レクリエーション協会も、よくもまあたくさんの魅力的なスポーツ・レクリエーションを考案したものです。

子どもたちにとっても、自らの「想像」力を掻き立て、新たな「創造」を見いだせる充実の夏であってほしいと願っています。